

会議名	坂出市まちづくり基本構想審議会 第2回分科会
開催日時	平成27年10月6日(火) 午後6時～8時
開催場所	坂出市本庁舎3階委員会室
出席委員	高塚 創(会長) , 國時 忠能 , 木原 光治 , 土井 智司 , 中橋 恵美子 , 大林 貞治
欠席委員	三野 八重子

会議の経過および発言要旨

1. 開会

2. 審議

(1) 坂出市人口ビジョンおよび坂出市まち・ひと・しごと創生総合戦略の素案について

●会長

事務局より、まず坂出市人口ビジョンの素案について、説明いただきたい。

●事務局

(坂出市人口ビジョン素案について説明)

●委員

将来推計人口の目標値が高い(人口ビジョン37ページのパターン⑤)根拠が、わかりにくいと思う。坂出市として、こんな取組があるから人口が増えるというようなことがないと、実現は難しいのではないか。香川県も将来推計人口の目標値を高くしているが、それに合わせて坂出市も目標数値だけを高くしても、非常に無謀である。達成できなかった場合のペナルティはあるのか。分科会として、責任が持てない数値ではないかと思う。

●委員

人口ビジョン3ページの「平均寿命の推移」で、坂出市の平成22年の女性の平均寿命だけが短くなっている理由は何か。新生児等の問題なのか。

平均寿命が下がっているということは、各世代の寿命が短くなって県の推計よりも下をいくはずなので、そこをクリアしないと安全安心を謳っていけないし、将来推計人口の目標を越えられないのではないか。

●事務局

男性については変わっていない。坂出市の現状で言えば、医療環境も恵まれており、県内の中で著しい差はないと考えている。平成22年に関しては、確かに数値が減少しているが、誤差なのか、今後も継続していくものなのかについては、分析できていない状況である。

●会長

人口ビジョンでは将来推計人口のパターンを5案提示しているが、いくつ提示する必要があるのか。また、その目標に達しない場合など、目標値はどういう位置付けとして捉えればよいのか。

実現は難しくても、高い目標を設定することで良い方向につながるのであれば、強気な目標でも良いと思うが、推計パターンの意義はどう考えれば良いのか。

●事務局

目標を達成できなかった場合にペナルティがあるかどうかについては、国からは特に聞いていない。

●会長

人口ビジョン37ページのパターン④は、香川県と同じ水準での社会増を見込んだ設定となっている。これを基準として置くのは良いと思う。パターン⑤については、社会増を年間100人とするのか、あるいは違う値にするのか検討が必要だと思うが、現在の坂出市の持っているポテンシャルを最大限生かすことで香川県を上回る方向に持って行ければ、パターン⑤を設定することも考えられる。総合戦略との兼ね合いもあると思う。

●委員

パターン⑤を目標にするのは、間違いなく相当な覚悟がいると思う。坂出のやる気を示すことが大事だと思うし意気込みを感じるので、それに沿うような総合戦略にしてほしい。坂出市の決意と考えれば、目標は高くすべきだと思う。

●委員

パターン⑤は非常に挑戦的な目標だと思う。

ただ、人口ビジョン30ページの平成22年の人口ピラミッドと、39ページのパターン⑤の平成72年の人口ピラミッドを比べると、若年層は男女とも1,000人程度となっており大きな変化はなく、先々での人口動態に関する問題はあがあると思うが、達成できないという数字ではないのではないかと。

市として人口抑制対策に取り組んでいく中で、それに向けた具体的な戦略を組んで頂きたい。

●委員

総合戦略の説明を聞いてから判断したいと思う。

●会長

それでは、事務局より坂出市まち・ひと・しごと創生総合戦略素案について、説明いただきたい。

●事務局

(坂出市まち・ひと・しごと創生総合戦略素案について説明)

●委員

人口ビジョンの流れで行くと、日本創生会議の推計よりも格段に高い目標を掲げていることについては、各課それぞれの計画の中で少しずつ思いを盛り込んでいると思うが、残念ながら近隣のどこのまちでも盛り込んでいる内容であり、横並びの状況を脱するほどのポイントが現状では見えてこないように感じている。

例えば、新婚世帯への家賃補助に関して、宇多津町でも同様の制度を創設しているが、同額の補助金が出る場合、坂出市は選ばれないのではないかと。

子育て支援の分野では、観音寺市や高松市で第2子の保育料を無料にしていく施策が今後進められるようであり、非常にニュース性がある。子育て支援が必要な世帯は、このようなことを話題にしている。坂出市でも子育て支援センターを整備することは目玉ではあるが、どの自治体でも子育ての拠点は作っているため、それだけでは吸引力につながらず弱い。

一方で、それぞれ各課で既に作成した計画があるため、総合戦略で好き勝手に内容を盛り込めるわけではないとも感じており難しいのだと思うが、現状のものだと、人口を増やすための取組みに関するポイントが見えにくいと思う。

例えば、総合戦略の15ページで「結婚・妊娠・出産・子育てにおける支援を切れ目なく実施し」とあり、具体的には16ページの「こんにちは赤ちゃん事業」などがそれにあたると思うが、切れ目のないという視点で言えば、結婚・妊娠について「これだ」と言うような支援事業がない。また、婚活支援は全国的に行われているが、坂出市は婚活に関する取組が遅れている。子育てだけで言うと、流入人口や出生率、生まれる人口を増やすことが必要だと思うが、人口を増やすための魅力が現状の総合戦略には欠けているように思う。

一方で、高齢者にとっては魅力的なまちだと思うので、巡回してくれて健康管理もしてくれるサービス付き高齢者住宅といった、少し裕福な高齢者が住んでくれるようなマンション等を建てることで、人口増につなげていくような方針を立ててもよいのではないかと。

●委員

宇多津町と坂出市の公園に関して言えば、宇多津町では子どもたちが公園に沢山いて常ににぎやかだが、坂出市は、少しずつ増やしているそうだが遊具もないし、人もいないことが非常に悲しく、残念な状況だと思う。

●事務局

遊具は少しずつ増やしている。遊具を整備した結果、子ども連れで来てくれる人も増えていることから、効果はあると思う。

第2子の保育料の無料化については、近隣の動きも承知しており検討していく必要があると思っているが、総合戦略にその内容を入れていけるかどうか、十分検討していくべきだと思う。

また、子育て支援センターを新たに整備する林田町は、住宅建設が進んでいる地域であり、さらに、隣接する加茂町もさぬき浜街道の無料化で宅地開発がかなり進んでいるため、子育て支援センターを子育て支援の拠点にしていけたらと思っている。

●委員

新しい取組を盛り込めないのであれば、総合戦略の最後の「おわりに」のページに、「市民一人一人が自覚を持ち、我がまちを良くしていこうという思いで行動する」というような趣旨の記載がほしい。みんなが「坂出は良いよ！」というポジティブな発言をして良い情報を発信することで、宇多津町のように変わっていくのではないかと思う。

坂出市は、高松市まで電車で15分で行くことができる便利なまちである。市民の意識や自覚を醸成させるためにも、市民一人ひとりのための計画であることを訴える必要があると思う。

●委員

会議が始まる前に商店街を歩いたが、多くの店舗でシャッターが閉まっていた。先日、石川県の金沢市で行われた会議に参加し、富山市駅前を再生した早稲田大学の宮口教授の話聞いた。駅前の寂れた商店街に広場をつくり、絶え間なくイベントを開催することで老若男女が集まり、屋台やマルシェも出店し、さらには店舗までもが帰って来たという。商店街の出入口や真ん中にその広場はあり、とても良い雰囲気である。絶え間なくイベントを開催することが重要である。

高松市にも丸亀町壱番街前ドーム広場という無料でイベントができる広場がある。あのような機能や仕掛けがほしい。丸亀町が再生したのは、郊外にいた店主たちに、商売をする条件で中心部のマンションに呼び戻したからである。中心部に人を戻すとインパクトがあり、良いまちのイメージにつながると思う。

世界的企業のKOMATSUは、地方に本社機能を移転するための条件として、出生率が高いことを挙げているようだ。坂出市も、立地条件の良さだけでなく、住み良さ等をアピールするような企業誘致をしてほしい。以上の二点が、坂出市に合う方法ではないかと思う。

また、金沢市は、開発する所と開発しない所を明確に分けている。お城がある中心部は開発しないが、駅から港までの区間は開発して人を集め、現在は人口約45万人の都市となっている。古さと新しさが融合しており、メリハリのあるまちとして参考にしてほしい。

坂出市の総合戦略については様々な意見があると思うが、目玉となるような具体的な取組がほしい。

●会長

徳島県神山町にIT関連企業のサテライトオフィスがあり、その会社では勤務地を東京と神山町のどちらを選択しても良いとなっているが、現在は若い人を中心に約20%の人が神山町で仕事をしている。数年のうちには3割程度になるだろうと予想されている。若い人は、田舎である神山町の生活を含めたトータルの良さを選択していると思われる。生活の場として選んでもらうために、いかに取り組んでいくかが重要だと考える。

●委員

企業誘致について、様々なところで耳にするが、坂出市の最大のネックは、人が集まらないことである。従業員をいかに呼べるかが重要であり、人が住めるまちにしていかなないと企業として成り立っていかない。企業誘致と絡めて、人をどのようにして呼ぶのか。

宇多津駅前にはマンションが立ち並び、若い人も住んでいる。坂出市も近く分譲開始のマンションもあるが、戸数がそれほど多くないのが現状であり、規模を大きくする必要もあるだろう。商業地域や人を集める地域等を考えたうえで子育てしやすいまちになっていくと、子どもも増え、さらに母親も子どもを預けて働けるようになり、企業も人材が確保できる。大きな流れで言うと、全部がつながってきて、まちとしての魅力が強くなってくると思う。

また、商店街をどのようにしていくのかは、市として避けて通れない問題ではないか。みんなの意見がまとまるには時間がかかるだろうが、区画整理について地域ごとで課題を整理していきながら、坂出駅北側の道を市立病院近くまで延ばすなど、商業地と住宅地を分けながら住環境を提供するようなまちづくりができないかと思う。

●委員

商店街のシャッターが閉まっている店舗には、人が住まわれているのか。

●委員

住まわれている。

●委員

駅前などで、人が来るイベントを切れ目なくやることが大切だと思う。

●会長

最初に企業誘致と言われても、今までの坂出市の方向と変わらない。

坂出市の大きな課題となっているのは、駅前のまちなか商店街ではないか。出来るところからはじめる必要がある。高松市の丸亀町についても、最初に大きな絵を描いて進めたのではなく、出来るところからはじめて成功している。坂出市でも、まず出来るところから取り組み、連鎖させていく仕組みができると良いのではないかと思う。

●委員

富山市では、運賃の安いおでかけバスを走らせ、郊外の交通弱者であるお年寄りを中心に市街地に呼び込み、今ではイベントがあるごとに多くの方が参加する状況になった。人が集まるような取組をしなければ難しいだろう。

●委員

社会増に向けた取組を進めていくしかないと思う。子育て世代に選ばれるまちづくりが大事になると思うが、まちなかで子育て世代に選ばれるとしたら、教育が大事だと思う。王越町は小学校を統合したが、やはり学校がない場所へは子どもは戻ってこない。そういったことも入れてもらいたい。王越町は土地利用が比較的自由なので、番の州だけではなく王越町にも企業立地を考えてはどうか。

子どもが少なくなったとしても、現状の学校数を維持しないと、人口は維持できないと思う。そういったことも考えて頂けたらと思う。総合戦略11ページの移住・定住の促進対策は、必ず他の自治体も盛り込んでくるだろうから、おそらく転入者の取り合いになるだろう。香川県は日本一高校野球が弱いと思うが、高校野球の強い福井県のようにリトルリーグを盛んにしていくといった事も含めて、子育て世代にアピールするポイントを考えると良いのではないか。

●委員

坂出市に住むと農業に従事できるよう農地を貸し出すなど、何か面白いことができないかと思う。

坂出市もホームページで情報を発信しているが、もっと坂出市の良さのPRや、一目でわかるような情報発信ツール等ができないか。

●会長

総合戦略の個別事業を変更できるかどうかかわからないが、やはり最初に企業誘致を持ってくると、今までの計画と変わらないと思う。もちろん必要であり、坂出市の基盤になると思うが、変わろうとしている姿を見せるには、まちなかの活性化等を真っ先に持ってくると良いのではないかと思う。総合戦略の5ページでいえば、基本目標3(1)がそれに該当するのではないか。生活の基盤を中心とするならば、企業誘致等は最後に持つてくるほうが良いと思う。

また、最終ページで、もう少し市民を喚起するような書き込みや、目玉になるようなところを強調するようにすると良いのではないか。期限が迫っているため難しいと思うが。

●委員

文章をたくさん読んでも内容が入ってこない。広場が出来た、子育て支援施設が出来たことなどを絵にして入れてもらえれば、わかりやすいのではないか。かたちが見えるように、絵でわかりやすく表現して頂くとうれしい。

●委員

鳥取県ではスターバックスコーヒーの出店で一瞬にぎわったが、結局は国外の企業にお金が出るのであり、地方創生でも何でもなし。地元のお金は地元で使い、地元の発想で進めていくのが大切である。

現在、他の自治体で話題になっているTSUTAYAが運営する図書館についても、なぜ地元の本屋に知恵を出してもらわないのか。また、そういったことをチェックするのが議会であり、きちんとチェックしないために、市民のお金を市外の企業に出してしまっている。

●委員

前回の分科会でスターバックスの話をしたが、決してスターバックスを呼びたいという想いから話をしたのではなく、地元頑張ってもらいたいと思っている。

●会長

企業を呼び込むということは、雇用が生まれ、決して悪いことではないが、企業にとってはマニュアル通りに動いてくれる人がいれば良いということになると思う。

地域活性化の取組に関して言えば、頭脳を持った人が居てはじめてユニークなものが生まれてくるわけで、企業誘致で実現するものではないと思う。

●委員

大切なのは「人」だと思う。人と人が出会う場所、ふれあいの場所をつくるにはどうしていくべきかを検討すべきではないか。

(2) その他

●会長

その他で、事務局より、今後の進め方およびスケジュールについて説明いただきたい。

●事務局

(10月23日に第2回坂出市まちづくり基本構想審議会を開催し、10月末までに坂出市人口ビジョンおよび坂出市まち・ひと・しごと創生総合戦略を策定予定の旨を説明。)

●会長

日程に余裕がない状況である。総合戦略は5年という期間であり、新たな取組をあまり盛り込むことが出来ない中、揃っている材料から工夫して作成するしかない。短い時間であるが、事務局と打ち合わせし、まちなかの活性化を総合戦略の冒頭に持つてくることにしたい。1番の課題となっている坂出市の暗いイメージを変えるため、まちの顔となる最初の部分に持つてくることにする。産業振興も重要であり引き続き取り組む必要があるが、生活の基盤ということで市民共働や介護・福祉などと同様に考え、基本目標3に盛り込むようにすることを提案させて頂きたい。

1ページの「1. はじめに」については、前回の意見を反映してもらった結果、非常に良くなり、市民の方と課題を共有できる内容になったのではないかと思います。

最終ページの「4. おわりに」については、もっと工夫してはどうかという意見があったので、もう少し方向性等について付加できたら良いのではないかと思う。個々の事業にメリハリをつけることはなかなか難しいようだが、以上の意見を提案させていただきたいと思うが、如何か。

●各委員

(異議なし)

3. 閉会